

稲わらは 使えば資源、燃やせば公害 です!



稲わらは燃やさず、有効利用しましょう



西北地域県民局地域農林水産部

<<稲わらのすき込みで土づくり>>

稲わらは大切な資源です。すき込むことで、土壌の物理性や化学性を改善することができます。田んぼの地力を高めて、おいしいお米を生産しましょう！

○すき込み時期は、秋を基本とし、石灰窒素など腐熟促進剤を使用する。

○春の代かきは、水深を浅めにして、稲わらを土中に埋め込む。

○根腐れを防ぐため、気象条件に応じた適正な水管理や、中干し、溝切りを行い、土に酸素を供給する。

○稲わら連用施用田での基肥窒素量は、連用年数や生育状況に応じて加減する。

《基肥窒素量の目安》

すき込み年数	基肥窒素量の目安
連用2～3年まで	慣行より5～10%増やす
連用3～4年目	慣行施用量と同量
連用4～5年目以降	慣行より5～10%減らす

<<稲わら流通促進マッチング>>

稲わらは、昨今の物価高騰により家畜の飼料や敷きわら、園芸資材等として利用価値が高まっています。

県では、稲わらの有効利用に向けた、流通を促進するためのマッチング支援に取り組んでいます。



○稲わらの販売希望者と買取希望者のマッチングリスト

・販売希望者及び買取希望者のリストをホームページで公開しています。

・申し込むことで、リストに掲載することができます。



○稲わらふりーでん

・一般の住民に稲わらを実償で提供する取組です。

・市町から承認を得ることで、一般の住民が稲わらを持ち出すことのできる田んぼとし、のぼり旗を設置することができます。

